

PMR 資格試験への挑戦

～なんで、私が PMR に！？～

デロイトトーマツコンサルティング合同会社
パブリックセクター シニアコンサルタント
井上 沖いのうえ



1. 受験の動機

私が PMR を受験したきっかけは一般的に普及しているプロジェクトマネジメントの高位の概念の習得に興味を持っていたことにある。

私は現在コンサルタントという立場から、大規模システム開発におけるプロジェクト管理を行っている。また、業務の傍らでは情報処理技術者試験(プロジェクトマネージャ)にも合格し、知識と経験の両面から一定のプロジェクトマネジメントに関する知識は修得していると認識していた。その一方、実際のプロジェクトでは、その知識と経験だけでは解決できない問題にも日々直面しており、自分の考えの拠り所になるものを必要としていた。その中で出会ったのがプログラムマネジメントであり、P2M であり、PMR であった。

2. 受験の感想

2-1. 1次試験

1次試験は論文と面接に分かれているが、私にとっては論文が大きな壁となった。今後の多くの受験者が同じ経験をすることと思われるが、例えば IT 系のキャリアを持つ者がプラントエンジニアリングに関する問題を解いたり、またその逆のパターンの立場となったりする場合には、顧客や普段の業務の上位者の考えを想像しながら、回答を考える必要があるため、普段の業務とは異なる能力が求められるといっても過言ではない。また、それを限られた時間の中で適切に効率よくできることが PMR に求められる能力だと考える。

2-2. 2次試験

2次試験の最大の特徴はグループワークにあると考える。グループワークに求められるのはリーダーにおけるリーダーシップとメンバーにおける建設的な意見の 2 つであるが、異なるバックグラウンドを持つメンバーでのグループワークにおいては、この 2 つを上手く組み合わせていくことは非常に困難である。その中で特に比較的年齢が若い人へのアドバイスとしては、周りのリーダーのやり方を「見て盗む」ことである。いい方は決して良くないが、多くの経験を重ねた諸先輩方のリーダーシップは実際の今後のプロジェクトにおいても学ぶべきところが大変多いため、是非、勉強の機会と考えていただきたい。

2. PMR としての展望

まずは私自身が PMR としての行動様式を実践することが第一だと考えている。偶然ではあるが、PMR を受験する中で以前お付き合いのあった顧客から別案件での引き合いを頂くことが増えてきたのだが、今までのように個別のプロジェクトを完遂するという目線から、顧客のゴールやプロジェクトの目的を基にプロジェクトをデザインすることを考えるようになってきた。PMR はある種の経営者目線が求められるため、まだ力不足であることは否めないが、少しずつでも実務の中で PMR の実践力を磨いていきたいと思う。

以上

【プロフィール】

日系 IT ベンダー、外資系コンサルティングファームを経て現職。
中央省庁、地方自治体、独立行政法人等の公共機関に対し、業務・システム最適化における企画・計画立案、要件定義、設計、開発、工程管理や各種調査研究等のプロジェクトに従事し、幅広いコンサルティング業務の実績を有する。